

平成 25 年 11 月 11 日

大阪観光局運営推進協議会
委員各位

大阪観光局評価委員会
委員長 橋爪 紳也

大阪観光局評価委員会における審議内容及び結果について（報告）

標記について、第 1 回及び第 2 回評価委員会で審議決定した「大阪観光局事業評価指標」を報告するとともに、第 3 回評価委員会で審議した「平成 25 年度大阪観光局事業の進捗状況」及び「平成 26 年度大阪観光局事業計画案」、並びに審議結果について、下記のとおりご報告申し上げます。

つきましては、第 3 回評価委員会の議事項目について、その可否を別添書面にて表決いただき、事務局まで返送いただきますようお願いいたします。

記

■議事内容

- (1) 大阪観光局事業評価指標（報告） <資料 1 >
- (2) 平成 25 年度大阪観光局事業の進捗状況 <資料 2 >
- (3) 平成 26 年度大阪観光局事業計画案 <資料 3 >

■審議結果

平成 26 年度事業計画について、以下の点について検討すること。

検討内容は評価委員会委員長に報告し、その結果は委員長一任とすること。

- (1) 東京オリンピック招致を踏まえ、スポーツツーリズムをはじめ事業計画を示すこと。
(具体的なものを盛り込むこと)
- (2) 外国人受入環境の整備、ホスピタリティーの向上を考えること
(Wi-Fi、多言語表記、ムスリム対応など)
- (3) 観光バスについて、民間事業者の参入など仕組みを引き続き検討すること
- (4) 目標値の実質的な積み上げを数字で示すこと
(国地域別や MICE・教育旅行など各事業で記載できるものは記載すること)

■観光局による上記報告 <資料 4 >

資料 4 により、大阪観光局から報告を受け了承（10 月 22 日）。

その際、大阪観光局に対し下記の意見を申し伝える。

<委員長意見>

- ・報告については了承。
- ・東京五輪や受入環境整備については、すぐに実行できるものではないので、2020年を見据えて計画立案を進めるべき。
- ・ロンドン五輪では受入環境整備で何をしたか、さらには東京がどのような事業に取り組んでいくのかも、大阪観光局でしっかり情報収集をすべき。国策や東京を含む他都市の動向を意識したうえで独自の戦略を練るべき。
- ・世界的なイベントを開催することで、自治体や業界の大阪独自の習慣がグローバルスタンダードに改められたり、新たな方法論が具体化することがある。(例：64年東京五輪の際の地下鉄出口表示) その種の機運をうまく取り込めれば良いと思う。
- ・クールジャパンや食文化の振興策は、都市間競争に打ち勝つ、突き抜けた方策を考えないといけない。そこは行政が不得手な部分であり、観光のプロ集団である観光局の腕のみせどころ。これまで効果のなかったものは段階的にフェードアウトして、観光局がこれだと考える方策を重点化してほしい。
- ・観光局が独自にイベントを主催する場合は、圧倒的に費用対効果を示せる成功事例に留めていただきたい。むしろ既存の資源や民間のイベントの類を支援する事業、さらには内外にプロモーションする事業など、本来の業務に注力していただき、成果を示していただければと思う。

<事務局>

◇大阪府／府民文化部都市魅力創造局都市魅力・観光課
大阪市住之江区南港北 1-14-16 大阪府咲洲庁舎 37 階
電話：(06) 6210-9314

◇大阪市／経済戦略局観光部観光課
大阪市福島区野田 1-1-86 大阪中央卸売市場業務管理等 8 階
電話：(06) 6469-5159